



石川 康弘 議員
(拓政会)



「ライフ・シフト100年時代の人生戦略」の中で著者は、これからの長寿社会では、人生の3つのステージ（教育・勤労・引退）からマルチステージへ変化すると予測している。そして個々人においては、引退後の資金問題にとどまらず、スキル、健康、人間関係といった見えない資産について、できるだけ早いうちから意識し、育んでおくことを提唱している。ここで注目されるのが生涯教育の役割である。特に60歳代以降の高齢者世代が、人生の第二ステージを再設計し実り豊かなものにしていくことが必要であり、今後、地域社会が持つべき教育機能として重要になると考える。



本町における学び直し機会の創出や学びを生かした主な取組としては、グループ活動を通じて豊か

問 生涯教育の役割について

答 住民のニーズを踏まえ、生涯学習講座など、多くの方が参加しやすい学習機会の提供に努める

な人間関係を養い、心身の保持や余暇時間の活用を図り、自らの生きがいを見つけていくことを目的とした「しらかば大学」での活動や、団体・サークル活動などの要望に応じ、芸術・文化等の各方面における指導者を紹介する「生涯学習リーダーバンク」を開設しているほか、百年記念ホールの指定管理者であるNPO法人まくべつ町民芸術劇場が生涯学習講座や文化公演会を開催しており、これらを通じてマルチステージを含むキャリアを追求する人たちへの一助となっているものと捉えている。

教育委員会としては、今後においても地域の特性や年齢層などを考慮した多様な講座の開設や実習、展示会の開催など、さまざまな学習機会の提供を図るとともに、住民のニーズを踏まえ、生涯学習講座など、多くの方が参加しやすい学習機会の提供に努めていく。

「解説」

「ライフ・シフト100年時代の人生戦略」とは、ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットン、アンドリュース・スコットによる著書の中で提唱された言葉で、先進国の2007年生まれの人2人に1人が103歳まで生きる時代が到来するとし、100年間生きることを前提とした人生設計の必要性を論じている。

マルチステージとは、リンダ・グラットンが提唱する人生戦略のモデル。

20歳前後で社会に出てからは会社勤め、フリーランス、学び直し、副業・兼業、起業、ボランティア・など、さまざまなステージを並行・移行しながら生涯現役であり続けるというモデルである。

問 労働者協同組合法の対応について

答 国や道などの情報を収集し、関係部局で情報共有して制度周知に努める



令和2年12月4日労働者協同組合法が国会において成立をし令和4年10月1日施行されることが決まった。このことについて周知・広報活動のための職員・住民・関係団体等を対象とする学習会をする考えは。

町長

労働者協同組合法は、令和4年10月1日の施行に向けて、今後、国において施行のために必要な関係省令や指針が定められていくことになることから、現状にいては、制度運用の詳細は明らかにされておらず、町としては、法施行に向けた国や北海道の動向を注視しているところである。

このようなことから、現時点においては、町として学習会を開催することは予定していないが、今後、国や道などの情報を収集して研究を重ねるとともに、国が労働者協同組合の活動の具体例として示している介護・福祉、子育て、地域づくりなどの関係部局で情報を共有しながら、制度の周知に努めていく。